

暗唱のすすめ 百人一首編③

十一 わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと
はら やそしま こい
ひと つ あま つりぶね
人には告げよ 海人の釣舟

参議 簗
さんぎたかむら

十二 あま かぜ くも かよいじ ふ とじ
天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ
オ すがた ン
をとめの姿 しばしとどめむ

僧正 遍照
そうじょうへんじょう

十三 つくばね みね お みなのがわ
筑波嶺の 峰より落つる 男女川
こい ふち
恋ぞつもりて 淵となりぬる

陽成院
ようせいゐん

十四 みちのく ジ たれ エ
陸奥の しのぶもちずり 誰ゆゑに
みだ
乱れそめにし われならなくに

河原左大臣
かわらのさだいじん

十五 きみ はる の い わかな
君がため 春の野に出でて 若菜つむ
ころもで ゆき ふ
わが衣手に 雪は降りつつ

光孝 天皇
こうこうてんのう